

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170400016
法人名	社会福祉法人 天寿会
事業所名	グループホーム 大地
所在地	佐賀県多久市北多久町大字小侍132-6 (電話) 0952-74-3100

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年12月18日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	月末実費請求	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	療法人剛友会 諸隈病院 松尾歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体がISOの認証を得ており、常にサービスの質の向上に努めている。入居者のこれまでの人生に感謝しつつ、あせらず、ゆっくりとした、ひとつの家庭の様な雰囲気があるホームである。街に近い山里に位置しており、日常の散歩や買い物の折に地域住民と顔なじみになる機会も多い。周りの緑は入居者の安心と落ち着きにもつながっている。隣接する福祉施設の利用者との交流や他のグループホームと入居者同士の交流会も始まっている。本人や家族の希望を大事にしながら日々のケアが行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題はなかったが、更に取り組みを期待したい項目「思いや意向の把握」に努力が払われ、入居者の状況が落ち着き、改善している。また、外食や公園等に出かける時も、皆一緒に出かけるのではなく、希望に合わせて対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目を職員全員で再確認し、日頃のサービスを振り返ると共に、評価を更に質の高いサービスを提供する良い機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営理念や目標の説明と理解、活動の様子の紹介が主だが、事前に会議資料を各委員に送付し、討議の活発化を図っている。家族アンケートの結果も公表し、グループホーム自体への理解も深まっている。防災訓練時に近隣住民の参加、職員の顔と名前が一致する方策、行政との積極的な関わり、その他の取り組み事例がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年、ホーム独自の家族アンケートを実施し、率直な意見や要望をもらっている。面会時には必ず声をかけ、家族との対話を心掛けている。ハガキで忌憚の無い意見を頂く方策もとっている。これらから得られた意見等は全員で検討し、その声に応えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の散歩の際に農作業をしている地域の方々や挨拶や言葉を交わすように心掛けている。隣接する福祉施設には以前から顔見知りの方もおり、お茶を一緒にいただく事もある。地域の雛祭りや夏祭りに参加したり、法人全体の夏祭りや敬老会で住民と触れ合う機会もある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、法人の基本理念を基にしてグループホームとしての目標を話し合っている。本年も「家族や地域の方とコミュニケーションを図る」を重点目標の一つに取り上げ、その実現を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標を掲示したり、職員の個人ノートに記録するだけでなく、理念を常に意識しながら日々の細かい打ち合わせや介護計画の作成や評価を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や買い物の際に地域の方と顔を合わせて言葉を交わすだけでなく、地域の祭りや外食等の機会を通して地域住民と触れ合っている。敬老会にも一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の一つとして毎年家族アンケートを実施し、数値化してサービスの評価材料にしている。外部評価についても全員で検討し、なお一層のサービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に事前に資料を送付し、会議当日はホームの運営、日常の様子、活動内容等を話し合っている。委員からの質問や提案もあり、サービスの向上に資するだけでなく、地域とホームの相互理解の機会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政福祉関係の各種委員を務め、それがサービスの向上にもつながっている。民間防災協力隊も行政との連携から生まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会の折りや面会時、また、2ヶ月毎に発行しているホーム便りや法人の広報紙で日々の様子等をわかり易く知らせている。急を要する時や面会が少ない家族には、電話にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや家族会での話し合い、面会時における家族との対話の中から、運営に対する貴重な意見を把握する様に努めている。それらの意見を職員全員で前向きに受け止め、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職による異動以外は、ほとんど職員の異動はない。本年度は新規採用者が一人あったが、面接時の機会に入居者と接してなじみになってもらう機会を設け、違和感もなく入居者と溶け込んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で体系的に研修機会が義務付けられているが、ホーム独自にも定期的に勉強会を開いている。法人内で個人研修テーマ発表の機会があり、本年度は「看取りケア」について発表した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は目標の一つに他のホームとの交流機会を持つ事を挙げている。実際に民家改修型ホームへ入居者が訪問し、交流の機会が生まれている。職員にとっても良い勉強の機会ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	情報収集を大事にし、担当ケアマネージャーと情報を交換している。入居予定者には前もって面会したり、家族と見学に来てもらったり、お茶を一緒にいただいたり、レクリエーションに参加してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の様な関係づくりを目指し、尊敬と感謝の念を持って入居者と過ごしている。これまで歩いてこられた歴史や生活の知恵等、職員は多くの事を教えもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	諸情報や日頃の関わりの中から入居者の意向や希望の把握に努めている。献立を一緒に考えたり、個別対応の夕食やドライブの行き先決定などは、その中から生まれた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のあらゆる情報や本人や家族の意向は、全職員が確認し、共有している。また、家族とも連絡を密にとり、介護計画作成に反映している。介護計画は、具体的で、あくまでも本人本位である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しだけでなく、入居者の状態の変化によっては、随時、見直しが行われている。サービス内容に対するケアの実行表や、評価を有効に活用し、介護計画の見直しに役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば外泊や一時帰宅を支援している。その際は、ホームでの暮らしぶりや外泊先での様子を情報交換している。受診や通院の際は、家族の都合によって柔軟に対応している。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診や精神科医の回診があり、諸相談にもものってもらっている。場合によってはすぐに連絡し、状態の変化に応じてもらっている。歯科医は往診が主だが、医院での診察もあり、送迎の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族に指針を説明し、納得してもらっている。入居後も早期の段階から医師や家族と連携をとっている。昨年、看取りケアの事例があったが、主治医、看護師、家族と連携を密にして、全職員が方針を共有して、看取りをおこなった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一つの家族のような関係を築く事を心掛け、個人の尊厳を大切にしている。言葉の掛け方、居室へ入る際の礼儀、羞恥心を伴う行為に対する配慮、誇りを大事にする等配慮が諸場面に見受けられる。個人情報の管理にも職員の義務として、十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、介護計画にある一人ひとりの日課表によってその日が過ぎており、本人優先の一日である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事をいただきながらのなごやかな食事風景である。お茶碗と箸は自分の物を使用している。食事制限のある方も、盛り付けや調理方法の工夫によって見た目には何も変わらないようにしている。調理の下ごしらえ、配膳、後片付け等、その方に応じた支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	普通の家庭に見られる浴室で、希望する方は何時でもゆっくりと入浴できる。入浴順も希望によって細かな配慮をしている。入浴拒否があってもその心理を推測したり、気分を変えて後で入浴してもらったりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	飼っている金魚に話しかけながらの餌やり、米とぎ、料理の下ごしらえ、配膳や後片付け、洗濯物たたみ、花生けなど日々の会話や回想から生まれた役割も多い。また、新聞読み、団子造り、読書、野菜育て、日本舞踊、その他その方に応じた支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内に同法人の福祉施設があり、日々の散歩を兼ねてそこに出かけて挨拶や会話を交わっている。また、近くの果樹園や畑で農家の方と挨拶を交わしている。職員と一緒に買い物に出かける方もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は施錠をしていないが、現在は入居者の状況により、見守りが困難になる時に、止むを得ず、施錠している時間帯がある。その場合は、家族に説明し、同じ棟にある福祉施設との共有玄関を主玄関として利用している。	○	職員も施錠による弊害を十分に意識しており、常態化した施錠は行っていないが、やむを得ず施錠する時間帯があるので、現状の対応に終わる事なく、引き続き開錠に向けた一層の工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼間だけでなく、夜間時にも防災訓練を実施している。その際は、近隣住民も参加してもらっている。非常用の食料(5年間有効)、水(3年間有効)も備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	和食中心の食事に洋食を取り入れた献立で、管理栄養士の指導と助言を受け、栄養バランスも取れている。各人の好みや体の状況にあわせた献立でもあり、食事量や必要水分量の確保についても支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくて静かな居間や食堂には、食卓や配膳台、読書用の机、ソファ、金魚飼育槽テレビ、観葉植物が程よく配置されている。中庭のウッドデッキは、食事や夕涼みをしたり、ベンチに座って心が落ち着ける空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりに応じた個性のある居室になっている。家庭の茶の間を思わせる居室、人形を我が子のようにベッドに寝かせている居室、仏壇に毎日手を合わせておられる居室、本人や家族の希望で簡明な居室等、それぞれが心安らかに過ごせる居室となっている。		